

# 8-1

## 経口摂取を継続するための取り組み

### 安定した栄養摂取を目指したケアの実践

利用者本位の食事

安全な食事摂取

特別養護老人ホーム 東京武蔵野ホーム

発表者：介護職 土屋 絵美

所在地：東京都板橋区小茂根4丁目11番11号

TEL：03-3959-7421

FAX：03-3959-7438

URL：<http://www.komonenosato.com/>

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要

社会福祉法人小茂根の郷は、特養60床、ショートステイ7床、通所介護、訪問介護、訪問看護、地域包括支援、居宅サービス支援を併設している。また、特養である東京武蔵野ホームでは、介護度の上昇に対応し、看取りケアを実施している。

#### 〈取り組んだ課題〉

- ・食事介助に時間がかかり、本人の疲労感も強くなった。
- ・食事を嚥下する動作が苦しそうで、複数嚥下をしていた。
- ・食材によって口腔内に残留する事がある。
- ・食事の摂取量と体重の減少
- ・きちんと嚥下出来ているか、誤嚥していないかの判断が難しく、安全な食事介助が行えているのかという疑問があった。

#### 〈具体的な取り組み〉

- ・家族、CM、NS、PT、介護職、栄養士を含めてケアカンファを行い、経口摂取が胃瘻造設か、両方のメリット、デメリットの確認、家族の意向（本人は意志の疎通不可）、今後、考えられる状況を話し合い共有する。
- ・経口摂取を続けるため、本人に見合った食形態と食事介助の時間の決定。（PT評価）
- ・専門医による摂食機能評価の実施。（月1回）  
VE検査を行い、誤嚥の可能性、食形態、介助法の確認、食事前のマッサージ法の指導。
- ・歯科医師による義歯の装着、調整。（週1回）  
口腔のストレッチ、嚥下機能補助目的で使用。  
義歯を装着することで、舌運動の負担軽減、飲み込み時の顎関節固定。
- ・本人の状態や嗜好に合わせた食事の提供  
意志の疎通は出来ないが、表情や嚥下にかかる時間で味覚が残っていると判断。

家族の協力の下、ゼリーやプリンなど本人の好きな物を補食として提供する。

- ・介護職間での、食事介助の方法、補食の提供など情報や介助法を共有。

#### 〈活動の成果と評価〉

- ・摂食機能評価で誤嚥していない、食事形態、介助法に問題が無いことが分かり、介護者が自信を持って安全な食事介助を提供できるようになりつつある。
- ・食事介助の時間を20分間と決めることで、双方に負担のない介助が行えるようになった。
- ・本人の状況を周囲の人たちが理解することによって無理のない、本人のペースに合わせた栄養摂取が行えるようになった。
- ・今回の事例を通して、「食べる」と言うことだけに着目するのではなく、前後の背景や環境の重要性も大切であることを知るきっかけとなった。

#### 〈今後の課題〉

- ・介護者間にスキルや考え方の違いがあるので、全員に周知してもらうまでに至っていないが、少しずつ出来ることから始め、介助法の均一化を図っていくことが、今後の課題である。
- ・今回の活動を通して得た、行為そのものだけに目を向けるのではなく、背景や環境も重要であるという視点を他の介護にも応用出来るようにしていく。

#### 【メモ欄】